



岸川中だより

川口市立岸川中学校
川口市安行領根岸374番地の1
TEL268-4506 FAX268-4761
特別支援学級 TEL268-7110
さわやか相談室TEL268-4510
<https://kishikawa.official.jp>

「旅立ちの日」

校長 三浦 伸之

受検が終わり、三送会が終わり、明日はとうとう卒業式。三年生は今、どんな思いでいるのでしょうか？友達との別れに感傷的になっている？新たな未来に胸を躍らせている？いや、意外と、月曜からはもう岸川中学校に通わないということに、まだ実感が湧かないというところでしょうか？思いは皆さん違うと思いますが、式に参加する全員で、思い出に残る温かな卒業式にしたいですね。ところで、みなさんは卒業式そのものについてどれくらい知っていますか？「卒業式の何たるかも知らないくせに、やれ、制服の胸のボタンを下級生たちにねだられる。やら、卒業式で泣かないと冷たい人と言われそう。だの(斉藤由貴「卒業」より “古い”)という日本人のなんと多いことか！」某テレビ局のキャラクターに「ポーっと生きてんじゃねーよ！」と叱られないように、卒業式について少し知っておきましょう。まず、卒業式の意味ですが、「教育課程を修了したことを祝う」「感謝を伝える」等(他にも色々あると思います)があげられます。また、式は「学校教育法施行規則」に基づいて行われる式典です。では、卒業式はいつから始まったのか。日本で最も古い卒業式は1876(明治9年)年に陸軍外山学校で行われたとされています。当時の卒業式は、成果発表の意味合いが大きく、スピーチや体操の演技、軍楽隊の演奏なども行われていたようで、関係者以外にもチケットを配り一般公開する学校もあったようです。現代のように、涙と感動の卒業式になっていったのは、明治の終わり頃ということ、特に小学校では学校生活の集大成として、儀式的に形を整えるだけのものではなく、感情も伴うものにしていったそうです。そして戦後、より感動的な卒業式を目指す傾向になり、その中に「歌」が入ってきます。昭和30年代までは「蛍の光」「仰げば尊し」が一般的でした。では、いつ頃から「卒業ソング」が豊富になったのかということ、どうやら「金八先生」からということ。贈る言葉が式に取り入れられたことがきっかけで、それ以降、様々な曲が卒業式では歌われるようになり、今の涙と感動の卒業式の形になっていったようです。涙と感動の卒業式と歌には深い関係があったんですね。ちなみに、みなさんの中で「卒業式の曲といえば？」と問われればきっと「旅立ちの日に」と答えるのではないのでしょうか。この「旅立ちの日に」。埼玉県生まれなことを知っていますか？作詞は当時、秩父市立影森小学校の校長だった小嶋 登 さん。作曲は音楽教諭の坂本 浩美 さん。埼玉県が誇る日本一有名な卒業ソングと言ってもよいでしょう。

さて、来週からは3年生のフロアである2階が静まり返って、元気な笑い声が聞こえてくることも、楽しそうな笑顔を目にすることも出来なくなることが、毎年のこととはいえ、とても寂しく感じます。また、掲示物もはがされ、生徒の私物等も無くなり、ガラんとした教室も、主を失って寂しそうだなと感じてしまうのは私だけでしょうか。でも、「卒業」は3年生にとって人生の大きな転機。寂しがってばかりではいけませんよね。3年生のみなさん、これからの人生、きっと思い通りにいかないことも多いと思います。でも、何でも思い通りに事が運び、毎日が楽しいことばかりになってしまうと、きっと「楽しいってなんだろう。」と思うようになるはず。思い通りに行かないことがあるからこそ、人は苦労して、努力して、何かを掴もうとする。そして、それを掴めた時の喜びは何にも代えられないものになるのだと私は思います。これからの世界は予測困難です。でも、どうか、様々なことに失敗を恐れず、何度でも挑戦し、自分の夢を自分の手で掴み取ってください。みなさんに幸せな人生が訪れることを心から祈っています。

令和5年度全国健康づくり推進学校最優秀校を受賞しました

令和6年度学校保健文部科学大臣賞を受賞しました

2024 Kishikawa.J.H.S 51st